発達299
母子相互交流場面における行動分析の試み(1) 研究理論的アプローチ
末田浩二 国谷隆三 中野もも子
(和歌山県立女子短期大学)
1. 問題 母子相互交流の試みに一つとして、
母子相互交流場面に出た研究が最近増えてつつある。これらの研究は、母子関係をdynamicに
捉えつつ、母子の相間性・関係性を考察しようと
するものである。そこで、本稿はこの相関性、関
相性を明確に把握するために「相関」概念を導
入することを提案した。さらに、母子の相関性
・関係性を検討する際、行動理論を母子相互関
係に適用する事により有用であると考えられる。
2. 目的 本研究では、母子の相間性と観察をお
き、母子相互交流の相関性を考察する目的で
ある。今後の報道では、母子の相間性を主眼に
した行動分析カテゴリーを作成し、その相間性、妥
当性を検討するため、相関・相間分析を加味する。
特に、正常
ロール場面（親子の役割を演じる場面）と、非異常
ロール場面（親子が子供の役割を演じる場合）
の一覧表における相間性する相関、母子の行動相
関性に及ぼす相関の問題を検討する。これに並
列する相関表において、母子の相関性を相関する
役割、相関の傾向を表すものである。
3. 方法 対象・私立短期大学3年生（C A 5 2～
620）の男10、女10名およびその母親
相関交渉場面（表1）、場面など、母子の相間性
を考察している際、子供ともに子供、子供は
危険を伴うものである。このよ

<table>
<thead>
<tr>
<th>表1 行動観察セッション</th>
<th>1</th>
<th>2</th>
<th>3</th>
<th>4</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>時間（min）</td>
<td>5</td>
<td>10</td>
<td>5</td>
<td>10</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>表2 行動分析カテゴリー 一覧表</th>
<th>特徴</th>
<th>説明</th>
<th>内容例</th>
<th>頻度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>制限 略</td>
<td>自己レベル保持</td>
<td>自主的に行動を制限し、相手の行為を制限する</td>
<td>自己の行動を制限し、相手の行動を要求する</td>
<td>5 1</td>
</tr>
<tr>
<td>調節 関</td>
<td>過度</td>
<td>過度</td>
<td>過度</td>
<td>過度</td>
</tr>
<tr>
<td>協調</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
</tr>
<tr>
<td>頻度</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
</tr>
<tr>
<td>乱行</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
<td>相互レベル</td>
</tr>
</tbody>
</table>

4. 結果と考察
①カテゴリーの信頼性に関する検討 表3、カテゴリーの信頼性と相関 (％)

<table>
<thead>
<tr>
<th>再度スコア</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>75</td>
</tr>
<tr>
<td>75</td>
</tr>
<tr>
<td>75</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>調査者スコア</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>80</td>
</tr>
<tr>
<td>69</td>
</tr>
</tbody>
</table>

NII-Electronic Library Service
表4 各カテゴリの出現率

<table>
<thead>
<tr>
<th>カテゴリー</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
<th>計</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>細部制限</td>
<td>H</td>
<td>D</td>
<td>M</td>
<td>H</td>
<td>D</td>
<td>M</td>
</tr>
<tr>
<td>記憶制限</td>
<td>G</td>
<td>R</td>
<td>L</td>
<td>G</td>
<td>R</td>
<td>L</td>
</tr>
<tr>
<td>頭痛</td>
<td>F</td>
<td>S</td>
<td>P</td>
<td>F</td>
<td>S</td>
<td>P</td>
</tr>
<tr>
<td>医療制限</td>
<td>E</td>
<td>T</td>
<td>U</td>
<td>E</td>
<td>T</td>
<td>U</td>
</tr>
<tr>
<td>他</td>
<td>5</td>
<td>8</td>
<td>13</td>
<td>4</td>
<td>9</td>
<td>13</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表5 調査に使用した協調度標点の結果

<table>
<thead>
<tr>
<th>検者</th>
<th>A</th>
<th>B</th>
<th>C</th>
<th>D</th>
<th>E</th>
<th>F</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>成績</td>
<td>8</td>
<td>9</td>
<td>10</td>
<td>11</td>
<td>12</td>
<td>13</td>
</tr>
</tbody>
</table>

以上の結果は、カテゴリの特徴についての推測を検討したものである。この表より、本調査で作成したカテゴリは、記憶制限、頭痛、頭痛制限、頭痛、頭痛制限、頭痛、頭痛制限、頭痛という型で展開されている。「カテゴリ」とは、各異の間の共有を検査した結果、すべてのカテゴリにおいて共有が認められなかったことである。この表より、異なる相関の相関を示す結果、各異の差異が認められた。

表6 調査に使用した協調度標点の結果

<table>
<thead>
<tr>
<th>検者</th>
<th>A</th>
<th>B</th>
<th>C</th>
<th>D</th>
<th>E</th>
<th>F</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>成績</td>
<td>8</td>
<td>9</td>
<td>10</td>
<td>11</td>
<td>12</td>
<td>13</td>
</tr>
</tbody>
</table>

以上の結果は、カテゴリの特徴についての推測を検討したものである。この表より、本調査で作成したカテゴリは、記憶制限、頭痛、頭痛制限、頭痛、頭痛制限、頭痛、頭痛制限、頭痛という型で展開されている。「カテゴリ」とは、各異の間の共有を検査した結果、すべてのカテゴリにおいて共有が認められなかったことである。この表より、異なる相関の相関を示す結果、各異の差異が認められた。